

# お盆のお飾り一例

経木・経木立て

お位牌

花

仏膳

精霊馬・牛

きゅうりやナスで作った物でも結構です。

ローソク

お迎えローソク

お線香

お供え物と供物台

季節の果物や野菜をお供え下さい。

関伽水（あかみず）

お水をお供えします。  
（お家の鉢で構いません。）

まこも

ハスの葉

水の子を置きます。  
（ナス・きゅうりをさいの目に切り洗い米と混ぜた物）

お盆提灯

大きさ、デザインも様々ございます。

夏用お参り座布団

ほうろく・おがら

迎え火・送り火用

屋外でご利用下さい。周りには十分注意し、消火用の水をご用意下さい。マンション等では火災報知機が感知しますので、敷地外や安全な場所をご利用下さい。

お盆のお飾りは地方により異なる場合があります。  
ご寺院様や親戚の方にもご相談下さい。





ご先祖様をお迎えしましょう

# お盆の行事



吹田本店 0120-577-510  
茨木店 0120-699-510  
阪急淡路駅前店 0120-599-510

## お盆の意味

お盆は盂蘭盆（うらぼん）というのが正しく、インドの言葉で「逆さに吊り下げられた苦しみ」という意味のウランバナを漢字に音写したものです。

むかし、お釈迦様の弟子の目連尊者の亡き母親が餓鬼道に落ちたのを知り、お釈迦様の教えに従って多くの高僧たちに供養し、母親を救った仏教説話と日本古来の民俗信仰が結びつき、今日のお盆の行事になりました。仏様や先祖の恩に感謝し、力強く生きることを自覚する行事です。

## ご家庭でのおかざり

最近はお部屋のスペースに合わせ、コンパクトに精霊棚（盆棚）を設けたり、お仏壇の中にお霊供膳や季節の初物をお供えされてお盆の飾りとされる方も増えています。お盆提灯もお部屋やお仏壇の大きさに合わせて、一對もしくは一脚ご用意下さい。

## お盆提灯

お家の門口や玄関先でおがらを焚き、迎え火をしご先祖様をお迎えします。地域によってはお墓にお参りをしてローソクの火とともに線香を手向け、その火を盆提灯に移して家に持ち帰ります。提灯の灯りで道に迷うことなく一緒に家まで導くという意味が込められています。また帰って来られる精霊をもてなす意味もあります。

ただ、安全性の面から実際の火を持ち帰るとするのは難しいご家庭も多いと思います。実際には電池式ローソクや火を提灯に移すフリをしてお迎え下さい。

## 精霊馬・牛

精霊棚（盆棚）を設け帰って来られるご先祖様専用の場所を用意しますが、その中に胡瓜と茄子で作った精霊馬・牛があります。一説ではお家に帰ってこられる時は足の速い馬に乗り、あの世にお帰りになるときはのんびりと牛に乗って帰られるそうです。お盆の前には家の内に向け、お盆の終わる15日の夜には外に向けておくようにします。

## 新盆（初盆）

亡くなられて四十九日を終わられ、初めて迎えるお盆を「新盆（にいぼん）」「初盆（はつぼん）」と呼びます。また一周忌の法要も営まれていない時点でのお盆は、故人への追慕の心も強く当然ふだんのお盆よりお飾りやお供えを盛大にします。

精霊棚には故人の好物をお供えして下さい。盆提灯は本来白無地の物をお使いいただきますが、一年だけの使用になるので、最近では色つき、絵柄入りの物を最初からご用意される事をお勧めしています。

## 13日の迎え火

※火の取扱には十分ご注意ください。  
焚かれる場所にもご配慮下さい。

ここ大阪（関西）では一般的に8月13日～15日がお盆とされています。（東京や神奈川では一ヶ月早い7月に行く地域もあります。）12日の夕刻か13日の午前中に、精霊棚やお仏壇のお飾りを済ませ、13日の夕刻に提灯に火を灯しお迎えの準備を整えます。そして、家の門口や玄関で迎え火をします。素焼きのホウロクや燃えない容器にオガラを折って積み重ね火をつけて合掌をします。その煙に乗って先祖の精霊が家に戻ってこられると信じられています。

地域によってはお墓までお迎えに行かれます。（前述の通り）家の門前まで来たら、またその提灯の火をオガラに移し、その煙によって精霊棚の結界に迎え入れます。

## 14日と15日

14日、15日にはそうめん、おはぎ、あべかわ餅、季節の野菜や果物などをお供えしたりします。また、お盆の三日間はお霊供膳に家族の食事を一緒にお供えして下さい。お霊供膳には精進料理をお供え下さい。厳密にはお肉、お魚、卵、ネギ類はお供えできません。お魚のお出汁も禁じられています。ただ、現代のご家庭でこれを守る事は難しいので、お野菜のたき物にはネギ類を、お出汁にお魚を使って頂いても構いません。お肉やお魚をお供えする場合はお仏壇の中ではなく、外に前机を設けお供えして下さい。

## 送り火と精霊流し

※火の取扱には十分ご注意ください。  
焚かれる場所にもご配慮下さい。

家に迎えた精霊を今度は送り火でお送りします。毎年8月16日に行われる京都の大文字の送り火は有名です。

迎え火を焚いた同じ場所で、15日（もしくは16日）にオガラを積み重ねて火をたきます。その後、精霊棚のお飾りに使ったものや、お供え物をまとめて小舟にのせたり、まこもに包み川や海に流し、精霊流しを行います。ただ、最近は環境問題から流す事を禁止している自治体がほとんどです。周辺地域にそれぞれご確認ください。

## 浄土真宗のお盆

浄土真宗では自分の善や施物を死者に回向するという思想はありません。またあの世へ行った靈魂がお盆に帰ってくるという考え方もありません。よって一般的なお盆かざりや提灯を置かれたりはしません。ただ、故人を偲ぶ機会としてお盆の時期に豪華なお供えや提灯を灯されるお家もあります。ご寺院様のお参りもご依頼頂ければ応じて頂けます。

お盆は地域性や各家庭にもよってかたちや決まりに大きく違いがあります。菩提寺やご親戚にもご相談いただくと良いと思います。ご先祖様への感謝もそれぞれかと思ひます。皆様のよいお盆の迎え方をおつくりいただければと思います。当店でご協力できる事がありましたら、何でもご相談下さい。



吹田本店 0120-577-510  
茨木店 0120-699-510  
阪急淡路駅前店 0120-599-510



精進料理をお供え

# お霊供膳のご用意

すいこうどう  
翠光堂

吹田本店 0120-577-510  
茨木店 0120-699-510  
阪急淡路駅前店 0120-599-510



## お霊供膳

お霊供膳は法事、お正月、お盆、お彼岸などにご用意下さい。お家の方が召し上がられるお食事をお供え下さい。基本的には精進料理。厳密にはお肉、お魚、卵、ネギ類はお供えできません。お魚のお出汁も禁じられています。ただ、現代のご家庭でこれを守る事は難しいので、お野菜のたき物にはネギ類を、お出汁にお魚を使って頂いても構いません。お肉やお魚をお供えする場合はお仏壇の中ではなく、外に前机を設けお供えして下さい。

- ・飯椀…白飯もしくは炊き込みご飯 開眼などの祝事にはお赤飯
- ・汁椀…お味噌汁もしくはお吸い物
- ・高杯 (たかつき) …酢の物やお漬物
- ・平椀…お野菜の煮物。五種といわれていますが、こだわらなくても構いません
- ・壺椀…和え物やおひたし、酢の物
- ・お箸…お箸を飯椀と汁物の前に、先を左に向け、仏前ではお箸の方を仏様に向けて置く
- ・蓋…読経の前には蓋は外して下さい
- ・角打敷…お仏壇にお供えする際は、膳引きに角打敷き、その上に置いて下さい